

## 天気のおいさつことば

住 田 幾 子

### はじめに

おいさつは、コミュニケーションの始まりである。私どもの一日の生活をふりかえってみると、朝、目ざめた時から、就寝に至るまで、その場に応じて、さまざまな機能を持つおいさつことばがある。たとえば、「おはようございます。」「おやすみなさい。」「ありがとう。」「すみません。」など、すぐにも幾つかのものが思い浮かぶ。

おいさつことばは、私どもの言語生活において必要不可欠のものである。したがって、コミュニケーション上、おいさつ表現を、言語表現の基本の一つに位置するものとしてとらえることもできよう。この立場で、おいさつことばの世界を見つめて行きたいと思う。

さて、今回は、まずは、天気のおいさつことばを取り上げることにした。おいさつことば全般にわたって調査したところ、その中で、天気のおいさつことばが、一領域をなしているからである。天気のおいさつことばの用例を集め、その表現には、どのような発想法があり、どのような表現形式が認められるのかについて見ていくことにする。「おいさつの発想」と「『おいさつことば』の表現のかたち」とを見ていく研究方向については、早くに、藤原与一先生のご論考（参考文献①p.260～262）があり、その考え方をふまえていることをおこたわりする。

なお、この稿は、1978年度に、藤原与一先生の指導をいただいて調査し、まとめたものをもとに再考したものである。臨地調査の概要については、後記する。

### 一、天気のおいさつことばの発想法と機能

天気に関するおいさつことばについて、まず、その文表現に見られる話題に観点を置いてみると、「晴天」「雨天」「風」などのように、特に季節を問わないものと、「暑い」「寒い」「涼しい」「暖かい」などのように、夏・冬、あるいはその中間の時期など、季節に関係するものとの二つに大別することができる。ひとまず、先のを「天候のおいさつことば」、後のものを「季候のおいさつことば」と呼んでおく。雪・霜などは、天から降り来るものとして「天候」の中に入れてはいるが、実際には、季節を問うものでもある。が、とにかく、今回は、臨地調査で得た用例を、「天候」「季候」の二つに分類しておく。

つぎに、天気のおいさつことば全体を見わたしたところ、その表現に感じとられる心情

については、人がその天候・季候を「歓迎する」か、「歓迎しない」かの二点にしばられる。

天気の違いを、「天候」・「季候」と、「歓迎する」・「歓迎しない」との両方の発想の観点から分類すると、つぎの表のようにまとめられる。

	歓迎する	歓迎しない
天候	晴天 雨（慈雨）	強い日照 雨（慈雨を除く） 曇天 強風（台風も） 雪 霜
季候	涼しい 凌ぎよい 暖かい 心地よいなど 日照時間が長い	暑い 蒸し暑い 寒い 冷える・冷たい 日照時間が短い

私どもは、起床するとまず第一に気にかけるのが、その日の天気の場合である。晴天、雨天、曇天などと、天気は、日々変わると言っても過言ではなかろう。また、四季の移ろいもある。人々の健康、毎日の生活、あるいは生業に至るまで、大きく天気に左右される。したがって、天候・季候の様子は、人々の共通の関心事である。人は、互いの安泰を願って、共通の話題となる天候・季候の状況を取り上げてあいさつことばとしている。

人々の健康や暮らしにとって都合の良い天気を歓迎し、祝福しあい、喜びあう。逆に、都合が悪い天気に対しては、それを歓迎せず、心配しあい、いたわりあい、なぐさめあう。そこには、思いやりの心が流れている。

これらの「共通性」と「思いやる心」とによって、天気の違いをあいさつことばは、人々の出会いの場面で、即座に、人と人との「共通の場」に置き、「親の関係」に置くという機能を有すると考える。

## 二、天気の違いをあいさつことばの文表現形式

天気の違いをあいさつことばについて、上記のように、発想上の分類を試みたうえで、つぎには、その文表現の形式上の類型を見ていくことにしたい。その際には、特に、つぎの点に注目する。

- ①  $\left\{ \begin{array}{l} \text{述 話 部} \\ \text{修 飾 話 部} \end{array} \right. \rightarrow \left\{ \begin{array}{l} \text{歓迎する意の表現} \\ \text{歓迎しない意の表現} \end{array} \right.$

- ②
- |   |   |   |   |                |
|---|---|---|---|----------------|
| 文 | 末 | → | } | 呼びかけの文末詞を添える表現 |
|   |   |   |   | 文末詞を添えずに言い切る表現 |
| 文 | 頭 | → | } | 提示部を置く表現       |
|   |   |   |   | 提示部を置かない表現     |

以下には、各話題ごとに、その文表現の具体例を掲げていく。

(1) 天候のみさつ表現

先に、天候のみさつ表現から見ていこう。

晴天

まず「良い」ということばが修飾部に立ち、晴天を歓迎する意の表現の類型が認められる。

○エー テンキジャ ナー。(いい天気だねえ。)[K]

○ヨカ ヒヨリ ナー。(いい天気だねえ。)[E]

など、「良い天気」と評価する表現である。

○エー オテンキジャ ナー。(いいお天気だねえ。)[L]

○アー エー オヒヨリジャ ナー。(ああ、いいお天気だねえ。)[I]

などと、接頭辞「お」の付いた「お天気」ということばも定着している。

○エー オヒヨリガ ツズキマス ナー。(いいお天気が続きますねえ。)[I]

というのも聞いた。

○ヒヨリガ エー ネー。(天気がいいねえ。)[H]

のように、「よい」が述部に立つ、「天気が良い」という表現もある。

「きょうは」ということばが文頭に立つ表現も、類型の一つとなっている。

○キョーワ ヒヨリガ ユーイ ナー。(きょうは天気がいいねえ。)[G]

○キョア イー オテンキデス ナー。(きょうはいいお天気ですねえ。)[A]

などの例を得ている。「きょうは」と「良い」とが使われた表現は、天気のみさつことばとしては形式の整ったものである。

いっぽうには、

○オテンキデス ナー。(お天気ですねえ。)[A]

と、「きょうは」「良い」が省略された表現もある。述部の「お天気です」に、呼びかけの文末詞「ナ」が添えられた表現で、のみさつ表現としての慣用化を示すものであろう。

「お天気」は、晴天を意味するものとなっている。

この他にも、

○オテンキデ ヨロシューアリマス ナー。(お天気ですよろしくございますねえ。)

[J]

のように、「お天気で」・「良い」・「ございます」が使われた表現もある。また、

○オテンキデ ヨゴザイマス。(お天気ですよございます。)[G]

と、文末を言い切りにした表現もよく聞く。

○エー テンキデゴザリマス。(いい天気でございます。)〔M〕

という言い切りの表現もある。呼びかけの文末詞を添えなくとも、あいさつの表現としてすわりのよいものとなっている。これらの言い切りの定型表現が、あいさつことばとして、最も慣用化の進んだ段階のものであると言えよう。

#### 強い日照

晴天ではあるが、日照が強すぎると、

○アンマリ テルト ヒージー ノー。(あんまり照るとつらいねえ。)〔G〕

の用例のように、「ヒージー(つらい)」というマイナス評価の天気となる。

○マエヒニ ヨー テリマス ノー。(毎日よく照りますねえ。)〔M〕

○チント ヨー テリマシタ ノー。(なんとよく照りましたねえ。)〔M〕

○ヨー テン フー。(よく照るねえ。)〔G〕

などの用例も得られた。副詞「よく」と動詞「照る」とが呼応した表現となっている。

#### 雨天

雨天に関するあいさつことばは、多様である。まず第一に、「雨を歓迎する」表現から見よう。

○マー エー アメガ フリマス ナー。(まあ、いい雨が降りますねえ。)〔L〕

○コリヤー ヨカ アメガ フツテ キマシタ ナー。(これはよい雨が降ってききましたねえ。)〔E〕

など、文頭に「まあ」「これは」などが立ち、一呼吸を置いた表現と、

○ヨカ アメガ フリマシタ ネー。(いい雨が降りましたねえ。)〔B〕

のように、間を置かない表現とがある。

○ヨカ アメデゴザイマシタ ノモー。(いい雨でございましたねえ。)〔C〕

のように、「～でございます」という表現も定着している。

「うるおい(慈雨)」ということばもよく聞かれる。

○マー エー ウルイガ シタ ナー。(まあ、いい慈雨があったねえ。)〔L〕

○キョーア イー ウルイデゴザシタ ナー。(きょうはいい慈雨でございましたねえ。)〔A〕

など、「良い」が「ウルイ(うるおい)」を修飾する表現がある。なお、これらは、文頭に「まあ」「きょうは」が立つものである。また、

○イー ウルイデゴザス ナー。(いい慈雨でございますねえ。)〔A〕

○エー ウルイジャッタ ネ。(いい慈雨だったね。)〔K〕

などの表現もある。「良い」が述部に立つ表現の、

○ヒトウルエ シタケ ヨカッタ ネー。(ひとつるおいしたからよかったねえ。)

〔E〕

というのも聞く。

言い切りの表現に、

○イー ウロエデゴザイマス。(いい慈雨でございます。)〔G〕

○マー ウルオイノ ヨゴザシター。(まあ慈雨がようございました。)〔B〕  
などがある。

第二に、「雨を切望する」表現を見ていく。

○ヒトアメ ホシカ ノモー。(ひと雨欲しいねえ。)〔C〕

は、「欲しい」という歓迎する意のことばが述部に立つ表現である。が、あいさつ表現においては、述部に「よい」が立つ表現もよく聞く。

○マー ヒトフリ スリヤー エーソエ ナー。(まあ、ひと降りすればいいのにねえ。)〔I〕

○ウロイエガ スリヤー イーガ タナー。(慈雨が降ればいいがねえ。)〔G〕

○ヒトウルイ クルト イー ナー。(ひとつるおいくればいいねえ。)〔A〕

などや、「ようございます」が述部に立つ、

○アメイ チラ ヨゴザスガ ナー。(雨になるとようございますがねえ。)〔A〕

○ウルオイノ アメガ フリヤー ヨゴザス ネー。(うるおいの雨が降るとようございますねえ。)〔B〕

などが聞かれた。

言い切りの表現では、

○ドーゾ フリヤー ヨゴザイマス。(どうぞ降ればようございます。)〔G〕

があり、あいさつことばとして定着した表現となっている。

第三に、「雨を予想する表現」を見る。第一の「雨を歓迎する表現」と、第二の「雨を切望する表現」とは異なり、第三の「雨を予想する表現」以下は、「歓迎しない」天気に関するあいさつ表現となっている。

○アメノ フッチャ カフモー。(雨が降るんだらうかねえ。)〔C〕

○フロー カイナー。(降るだらうかねえ。)〔K〕

など、問いかけ表現が見られる。

○コリヤー アマー フリソージャ フー。(これは雨が降りそうだねえ。)〔K〕

のように、「降りそうだ」と予想する表現もある。

第四に、「降っている状況を叙する表現」を見る。

○フリタッタ タナー。(降り始めたねえ。)〔G〕

と、「降り始めた状況」を叙する表現である。

○キョーワ フリマス ナー。(きょうは降りますねえ。)〔A〕

○フリマス ナー。(降りますねえ。)〔A〕

などは、「降っている状況」を叙する表現である。

○ヨー フリマス フー。(よく降りますねえ。)〔M〕

は、「降り続けている状況」を叙する表現である。「強い日照」に関する表現と同様、程

度を越えた雨を「歓迎しない」もので、副詞「よく」と動詞「降る」とが呼応した表現である。言い切りの定型表現である、

○ヨー フリマス。(よく降ります。)[I]

も、よく聞く。

○マー アメガ ヨケー フル ナー。(雨がずいぶん降るねえ。)[L]

○ターイソ フル ナー。(ずいぶん降るねえ。)[A]

などは、副詞「ずいぶん」あるいは「たくさん」に相当する「ヨケー」「タイソ」と「降る」とが呼応する表現である。

○オーブリ ナッタ タナー。(大降りになったねえ。)[G]

○オーブリデゴザイマス。(大降りでございます。)[G]

など「大降り」と言う表現もある。また、

○コラー ナガアメイ ナリマシタ。(これは長雨になりました。)[B]

と、「長雨」ということばも聞かれる。いずれも、度を越えた雨を歓迎しない表現となっている。

第五に、「雨に飽いた」という表現がある。

○モー イヨイヨ アメニヤ アイタ ナー。(もう、まったく雨には飽いたねえ。)

[L]

○モー ナガアメイ ナリヤ アキマス ネー。(もう、長雨になると飽きますねえ。)

[B]

などが、その用例である。副詞「モー」と動詞「飽く」とが呼応した表現である。

第六に、「雨には迷惑だ」という意味あいの表現がある。

○アメン ウースギテ コマン ノモ。(雨が多すぎて困るねえ。)[C]

は、「雨には困る」という表現である。

○アメバツカリ イランバツテン マダ フツチャ カノモー。(雨ばかりいらなけれど、まだ降るのだらうかねえ。)[C]

は、「雨はいらな」という表現である。

○モー カタビヨリデ フランテイヤー フランバツテ フルチャー コゲナフーデ フツテカラ モー ヤミヤー ヨゴザサガ ネー。モー アガラニヤ ナリマツセンガ。(もう、片日とで降らないといえ降らないけれど、降るといえばこんなふうで降って、もう、やむとようございますがねえ。もうあがらないといけません。)[B]

というのは、「雨がやめばいいけれど」という表現を含む用例である。この他、

○ソコソコニ ヤムラ イーノニ ナー。(そこそこにやめばいいのにねえ。)[G]

という例もある。

第七に、「大雨でうっとうしい」という意味あいの表現がある。

○シロジー ナー。(大雨でうっとうしいねえ。)[A]

○コゲン フリャ シロシューゴザス ネー。(こんなに降るとうとうしいですねえ。)[B]

など、「シロシー」が述部にはたらく表現である。

客を迎える際のおいさつことばとして、

○マー アメノ フルノニ オシロシゴザイマシチヨロ。(まあ、雨が降るのうとうとうしうございましたでしょう。)[A]

というのものもある。これらの表現は、「シロシー」が「大雨でうとうしい」の意で生きる地域にのみ存立するものである。

### 曇天

曇った日については、

○ウットーシー ナー。(うとうしいねえ。)[K]

○ウットーシューゴザイマス。(うとうしうございます。)[I]

などの、固定した表現がある。

### 風

特に、程度を越えた強い風に対するおいさつ表現が聞かれる。強風は、「歓迎しない」天候である。

○カジェン コジ ヨカッタ ナー。(台風が来なくてよかったねえ。)[E]

○ウーカゼノ コンヤッタケン ヨカッタ フモー。(大風が来なかったからよかったねえ。)[C]

などは、台風などがそれた時にかわすおいさつ表現である。

○ヨンベウ オーカゼガ フイチ オーゴツジャッタ タナー。(ゆうべは大風が吹いてたいへんだったねえ。)[G]

○マー アフ タイフーワ イケザッタ ネー。(まあ、あの台風はいけなかったねえ。)[K]

などは、強風による被害を気づかう表現である。

### 霜

霜がおりた朝のおいさつことばとしては、

○ウージモジャツ タナー。(大霜だねえ。)[G]

○キョーワ オージモジャツ タナー。(きょうは大霜だねえ。)[G]

などの表現がある。この種の表現は、単に霜がおりたことを叙するものであるが、「霜」はまた、「冷える」「冷たい」という表現に通じてもいる。これに類する表現は、後に、「冷える・冷たい」の項で述べることにする。

### 雪

雪に関しては、

○サムイト オモイヨリマシタラ ユキノ フリダシマシタ ネー。(寒いと思ってい

ましたら、雪が降り出しましたねえ。)〔B〕  
が、一例得られたのみである。自己を内省してみても(北九州市若松区方言)、今のところ、

○ユキニ ナリマシタ ネ。(雪になりましたね。)  
ぐらいしか思い浮かばない。後に述べる「寒い」という表現にかえているものと考えられる。

## (2) 季候のあいさつ表現

つぎに、季候のあいさつことばの文表現の類型を見ていこう。

### 暑 い

厳しい暑さは、仕事や日々の生活において辛いものと認識している。したがって暑さを「歓迎しない」表現となっている。

○キョーワ アツデー ヤオナカッタ ナー。(きょうは暑くてたいへんだったねえ。)

### 〔A〕

などという表現がある。また、

○マー キョーワ アツーテ エラカッタ。(まあ、きょうは暑くてつらかった。)

### 〔K〕

○アツーテ ドネーモ ナラン。(暑くてどうしようもない。)[K]

○タマラン ナー。(たまらないねえ。)[A]

など、「つらい」という意味あいのことばが述部に立つ表現が、応答のあいさつことばとしてよく聞かれる。

「つらい」という意味あいのことばがなくとも、暑中のあいさつことばには、暑さに対するやりきれない心情がこめられている。朝方のあいさつことばとしては、

○キョーワ アツー ナリマッシュョー ネー。(きょうは暑くなりましょうねえ。)[B]

○キョーモ アツカロー ナー。(きょうも暑いだろうねえ。)[K]

などの表現がある。ここでも、文頭に「きょうは」「きょうも」が立つ表現の類型が認められる。日中のあいさつことばでは、

○キョーワ アチー タナー。(きょうは暑いねえ。)[G]

○キョーワ アツイデス ノー。(きょうは暑いですねえ。)[K]

○キョア アツゴザス ナー。(きょうは、暑うございますねえ。)[A]

○キョーワ オアツーゴザリマス ノ。(きょうはお暑うございますね。)[L]

○キョーモ アツイ ナー。(きょうも暑いねえ。)[K]

などを聞いた。夕方方のあいさつことばでは、

○アツカッタ ナー。キョーワ。(暑かったねえ。きょうは。)[A]

○キョーワ アツカッタデス ナー。(きょうは暑かったですねえ。)[K]

○キョーワ アツーゴザリマシタ ノー。(きょうは暑うございましたねえ。)[M]



などが聞かれた。

簡略化された表現としては、

○アツイ ネー (暑いねえ。) [I]

○アツゴザス ネー。(暑うございますねえ。) [B]

などがある。さらに、言い切りの表現としては、

○オアツゴザイマス。(お暑うございます。) [G]

というのがある。

また、

○チカゴロ アツイー ナー。(近ごろは暑いねえ。) [G]

○チシタ マー アツイ ノー。マイヒニ アツイソガ ツズク ノー。(なんとまあ、暑いねえ。毎日、暑いのが続くねえ。) [I]

などの表現もある。暑くなり始めの季候、暑い日が続く季候に対する表現である。

その他にも、家人の帰宅をねぎらう、

○キョーフ アツカッター エー。(きょうは暑かったでしょうよ。) [K]

などの表現もある。

○アツカッタデショー。(暑かったでしょう。) [K]

という、来客を迎えるあいさつことばもある。

また、客を送るあいさつことばで、

○マー アツイケー ネー。マー ゴージン ナサイマセー。(まあ、暑いからねえ。ご用心なさいませ。) [K]

という表現もある。病氣見舞いの折には、病人に、

○アツカロー イナー。(暑いだろうねえ。) [K]

と、「いたわり」のことばをかける。

### 蒸し暑い

特に蒸し暑い日については、

○オモス ノモー。(蒸すねえ。) [C]

○オモシマス ネー。(蒸しますねえ。) [B]

などの表現がある。

### 寒い

寒さも、暑さと同様、「歓迎しない」季候である。

○トシヨリニア ニガテデス ネー。サムー ナツテ。(としよりには苦手ですねえ。寒くなって。) [K]

○マイヒニマイヒニ コネー サムーチャ ドネーモ ナラン ノー。(毎日毎日こんなに寒くてはどうにもならないねえ。) [I]

○コレホド サムーチャー ヤレマセン ノー。(これほど寒くてはやりきれませんねえ。) [J]

など、寒さに対して、「苦手」「どうにもならない」「やりきれない」という心情が吐露された表現である。

○マー キョア ナシタ サムイ ナー。(まあ、きょうはなんとも寒いねえ。)[I]

○タイテ サムナッタ ナー。(ほんとうに寒くなったねえ。)[C]

などは、副詞「ナシタ(なんとも)」「タイテ(ほんとうに)」などの修飾話部のことばに、厳しい寒さが感じとられる表現である。

○ヒニマシ サブー ナリマス フー。(日まじに寒くなりますねえ。)[M]

○サムーゴザシタ ネー。マダ サムー ナリマッショ ネー。(寒うございましたねえ。まだ寒くなるでしょうねえ。)[B]

などは、寒さが厳しくなりつつある頃のあいさつ表現である。寒さが一般的になる頃には、

○キョア オサムーゴザイマス ナー。(きょうはお寒うございますねえ。)[A]

など、「きょうは」が文頭に立つ表現と、

○サムイ ナー。(寒いねえ。)[I]

○サムイデス ナー。(寒いですねえ。)[A]

○サムーゴザス ナー。(寒うございますねえ。)[A]

などの、簡略化された表現とがある。また、

○オサムーゴザイマス。(お寒うございます。)[I]

という言い切りの表現もある。

### 冷える・冷たい

特に、霜のおりた朝方のあいさつことばを見てみよう。

○アー。コネー ヒエルヨーニ ナッタラ ホント コラ トシヨリワ コマリマス  
ネー。(ああ、こんなに冷えるようになったら、ほんとにこれは、としよりは困  
りますねえ。)[K]

というのは、応答のあいさつことばの用例であるが、まずは、「冷える」のは、「歓迎しない」季候であることがわかる。

○ゲサー マタ ゴッポ ヒエマス フー。(けさはまた、たいへん冷えますねえ。)

[M]

○アサバン ヒエマス ナー。(朝晩、冷えますねえ。)[I]

○コノゴラ ヒエチラシタ ナー。(近ごろは、冷え込むねえ。)[E]

など文頭に「今朝は」「朝晩」「近ごろは」などのことばが立つ表現がある。副詞「たいへん」などの語と呼応する表現では、

○トテモ ヒエル フー。(とても冷えるねえ。)[K]

なども聞かれた。簡略化された表現では、

○ヒエチラシタ ナー。(冷え込むねえ。)[E]

というのを聞いた。また、

○ケサー ヒヤエエ ネーター。(けさは冷たいねえ。)[M]

○マー シモアサー ツメトゴザス ネー。(まあ、霜朝は冷とうございますねえ。)

[B]

など、「冷たい」と表現する例もある。

この他にも、霜の候に関しては、

○ツメタカ ノモー。カンノ ヒドカー。(冷たいねえ。カンがひどいなあ。)[C]

○カンノ スル ノモー。(冷え込むねえ。)[C]

などの表現もある。「カンがひどい」「カンがする」というものと、

○キョーワ カンガ イー ナター。(きょうはカンがいいねえ。)[G]

○カンガ ユー ナッタ タナー。(カンがよくなったねえ。)[G]

など、「カンがいい」というものがある。これらは、「しっかり冷える」あるいは「冷え込む」という意味あいの表現である。言い切りの表現に、

○エー カンデ ヨゴザイマス。(いいカンでようございます。)[G]

○オカンガ ヨゴザイマス。(おカンがようございます。)[G]

などがある。「カン」に関する表現は、方言色の濃いものであろう。

涼しい

夏の暑さが遠く頃のおいさつことばを見てみよう。

○ダイヤモンド スズシュー ナツテカラ シアワセル ナ。(だいぶん涼しくなって助かるね。)[K]

と、「涼しい」ことを「歓迎する」意の表現が聞かれる。

○デーブン スズシ ナッタ タナー。(だいぶん涼しくなったねえ。)[G]

など、文頭に、副詞「だいぶん」が立つ表現がある。「涼しくなる」という表現では、

○モー アサバンナ スズシク ナッタ ノモー。(もう、朝晩は涼しくなったねえ。)

[C]

○アサバン スズシュー ナリマシタ ナー。(朝晩、涼しくなりましたねえ。)[I]

などのように、「朝晩(は)涼しくなった」という類のものもある。簡略な表現に、

○スズシク ナッタ ノモー。(涼しくなったねえ。)[C]

○スズシュー ナリマシタ ネー。(涼しくなりましたねえ。)[B]

などがある。

「涼しくてよい」という表現で、

○アサ スズシューシテ ヨゴザス ナー。(朝は涼しくてようございますねえ。)

[B]

○キョーワ スズシューシテ ヨロシゴザイマシタ ナー。(きょうは涼しくてようございましたねえ。)[A]

などがある。「涼しい」が述部に立つ表現に、

○キョーワ スズシガ ナー。(きょうは涼しいねえ。)[E]

○スズシカ ノモー。(涼しいねえ。)[C]

などがある。また、朝方のあいさつことばには、

○キョーワ スズシカロゴトアル ナー。(きょうは涼しそうだねえ。)[E]  
という表現もある。

**暖かい**

冬の寒さをのり超えて、春を迎える頃のあいさつことばについて見ていこう。

○マー ダイムン ヌクー ナツテ シアワセマス フ。(まあ、だいぶん暖かくなっ  
て助かりますね。)[K]

の用例のように、「暖かい」ことを「歓迎する」表現が聞かれる。

○ダイブン ヌクー ナツテ ヨゴザス ネー。(だいぶん暖かくなってようございま  
すねえ。)[B]

○マー ヌクー ナツテ エー ネー。(まあ、暖かくなっていいねえ。)[I]  
などは、「暖かくなってよい」と表現するものである。

○ヒナカー ダイメン ヌクー ナリマシタ フエター。(日中はだいぶん暖かくなり  
ましたねえ。)[M]

○ダイムン ヌクー ナリマシタ フー。(だいぶん暖かくなりましたねえ。)[J]

○ダイブン ヌク ナッタ アンタナー。(だいぶん暖かくなったねえ。)[G]  
などと、述部が単に「暖かくなった」と叙するのみの表現もよく聞く。

また、暖かい日差しを待ちのぞむ、

○ハヨー ヌクー ナランニャー イケマセン フエター。(早く暖かくならないとい  
けませんねえ。)[M]

という表現も聞かれる。

**凌ぎよい・心地よいなど**

時候の変わりめのあいさつことばに、「凌ぎよい」「心地よいなど」の類の表現があ  
る。いずれも、生活にほどよい気温であることを「歓迎する」意の表現である。

まず、夏の暑さをのり越えた頃のものに、

○ダイブン シノギヨー ナッタ タナー。(だいぶん凌ぎやすくなったねえ。)[G]

○シノギヨー ナッタ ナー。(凌ぎやすくなったねえ。)[A]

などがある。

つぎに、冬の寒さをのり越えた頃のものに、

○ココチノ ヨー ナツテ キタ ナー。(心地がよくなってきたねえ。)[E]

という表現がある。また、

○エー カンヤイ ナリマシタ フー。(いい季候になりましたねえ。)[K]

という表現もある。この表現には、

○エー カンヤイニ ナリマシタ。(いい季候になりました。)[J]

という言い切りのものもある。この他、

○カエン ヨー ナッタ ノモー。(気温の加減がよくなったねえ。)[C]  
 という表現も聞かれた。

日照時間の長・短

季候の変わりめの頃のおいさつことばとしては、「日照時間の長・短」を話題にする表現もある。

まず、冬から春に変わる時期に、日照時間が長くなったことを「歓迎する」おいさつことばがある。

○ダイムン ヒガ ナゴー ナッテ コノゴラ シアワセマス ネ。(だいぶん日が長くなって、近ごろは助かりますね。)[K]

という表現を聞いた。また、評価のことばを添えない、

○ヒガ デーブン ナゴ ナッタ タナー。(日がだいぶん長くなったねえ。)[G]  
 という表現もある。

つぎに、夏から秋に変わる時期には、日照時間が短くなったことを「歓迎しない」おいさつことばがある。

○ヒガ ミジコー ナッテ コマリマス ノー。ナンボモ シゴトガ ナラン ナ。

(日が短くなって困りまねえ。いくらも仕事ができないね。)[K]

というのを聞いた。単に、

○モー ダイブン ヒガ ミシコー ナッタ タナー。(もうだいぶん日が短くなったねえ。)[G]

○ヒガ ミジコー ナッタ ナー。(日が短くなったねえ。)[A]

という表現もある。

この他にも、

○モー クロー ナッタ ノー。(もう暗くなったねえ。)[G]

という表現も聞いた。

以上をまとめて、天候のおいさつ表現・季候のおいさつ表現の両者を通しての、その文表現上の特色となるものを取り上げてみよう。

歓迎する意の文表現では、「よい」という評価を下すことばが、述話部に立つ型と、修飾話部に立つ型とがある。

歓迎しない意の文表現では、述話部に、「こまる」「つらい」「いけない」「やれない」「どうにもならない」「たいへんだ」など、マイナス評価のことばが立つ。また、修飾話部に、「よく」「もう」「なんと」「まったく」「こんな」「たいへん」「とても」などに類する副詞が立っている。

文表現の終止法に注目すると、「ね」「な」「の」などの呼びかけの文末詞を添える表現と、文末詞を添えずに、「です」「ます」「ございます」などのていねいの助動詞で言い切る表現とがある。

文表現の頭部に注目すると、文頭に、「きょうは」「きょうも」「これは」「今朝は」「朝晩は」「日中は」「近ごろは」などのことばが提示される表現と、特に提示部を置かない表現とがある。

また、見方を変えると、

- I 提示部または評価のことばを添える整った文表現
- II 提示部または評価のことばを添えない簡略な文表現
- III 文末を言い切る簡潔な定型表現

という三種の表現類型も認められる。

## おわりに

あいさつことばは、なげかけあうものである。が、今回は、主に、まずことばをかける側の方からとらえて、それを整理し、分析したものである。天気のあいさつことばが、実際の言語生活の個々の場面で、どのようにやりとりされているのかという談話研究については、今後の課題として残される。それには、待遇表現上の視点も必然のものとなる。

また、共通語との対照、あるいは、あいさつことばの地域性についても検討を要する。

あいさつことばの研究に導いてくださった藤原与一先生には、心から感謝申し上げます。先生には、まだまだ多くの示唆をいただいている。今後も、さらに、あいさつことばの世界を見つめて行きたいと思う。

## 臨地調査について

調査年月 1978年7月～8月

被調査者 老年層（70才代）・中年層（40才代）・少年層（中学2年生）の女性、合計25名

調査地名（農業域）

- 〔A〕 福岡県北九州市八幡西区本城
- 〔B〕 〃 粕屋郡志免町志免
- 〔C〕 〃 三池郡高田町北新開
- 〔D〕 〃 築上郡築上町下本城
- 〔E〕 佐賀県東松浦郡肥前町新木場
- 〔F〕 〃 鹿島市高津原
- 〔G〕 大分県宇佐市大字中原
- 〔H〕 山口県下関市蓋井島
- 〔I〕 〃 豊浦郡豊北町大字阿川
- 〔J〕 〃 萩市三見床並
- 〔K〕 〃 阿武郡田万川町江崎

〔L〕 山口県厚狭郡山陽町吉部田

〔M〕 〃 防府市右田

参考文献

- ① 1963 藤原与一 「『あいさつことば』の研究について」(『方言研究年報 第六卷 特集 あいさつことば』広島大学方言研究会)
- ② 1968 鈴木孝夫 「あいさつ論 あいさつの言語社会学的考察」(『言語生活』No. 196)
- ③ 1971 文化庁 「場面とことばの使い分け」(『日本語教育指導参考書 2 待遇表現』)
- ④ 1979 岡野信子 「あいさつ表現」(『長門市史 民俗編』長門市史編集委員会)
- ⑤ 1980 藤原与一 「あいさつことば」(『言語生活』No.348)
- ⑥ 1980 広島女学院大学方言研究会 「協同調査報告 愛媛県越智郡岩城村の挨拶ことば」(『広島女学院大学国語国文学誌 第十号』)
- ⑦ 1984 沢登春仁 「外国語の挨拶語」(『研究資料 日本文法④修飾句・独立句編 副詞・連体詞・接続詞・感動詞』鈴木一彦・林巨樹編 明治書院)